



CHILDREN'S
WORLD
WATER
FORUM

世界子ども水
フォーラム

FOLLOW
UP ● IN
MIYAGI

フォローアップ
in 宮城



子どもたちが、
共に語り、共に考える
ことから

始まる、
小さな水のお話。

大きな水のお話。



このドキュメントノートは、宮城県栗原郡花山村で開催された「世界子ども水フォーラム・フォローアップin宮城」の活動を記録したものです。
この大会は、2004年7月30日（金）から8月1日（日）の3日間にわたり開催され、日本全国から69名の子どもたち（中学生・高校生）が参加しました。



世界子ども水フォーラム・フォローアップin宮城の概要

大会日時●2004年7月30日(金)～8月1日(日)

会場●国立花山少年自然の家および周辺地域

主催●世界子ども水フォーラム・フォローアップin宮城実行委員会

共催●国土交通省／財団法人河川環境管理財団

後援●文部科学省／農林水産省／環境省／宮城県／花山村／東奥日報社／秋田魁新聞社／岩手日報社／山形新聞社／河北新報社／福島民報社／福島民友新聞社／全国地方新聞社連合会



目次

contents



4 はじめに

水でつながる
このフォーラムに至るまで

水を考える
このフォーラムの運営方法

5 ステップマップ

私たちの3日間

6 ごあいさつ

小さなふれあいから、
水のこと考えよう

水と空気のおいしい里、
ようこそ花山村へ

ふるさとの河川に親しもう

何ができる。何をしよう
今、私たち、僕らの目線から

9 トークセッション

さあ、話しをしよう
子どもたちの、8つの分科会レポート

分科会1●LOVE&PEACE&WATER
分科会2●かけがえのない食料の水
分科会3●身近な水の利用
分科会4-1●水辺の生物と水質
分科会4-2●水辺の生物と水質
分科会5・6●人と水と土木
分科会7●地域と水
分科会8●環境教育

26 フォトギャラリー

みんなの笑顔、あつめよう

28 おわりに



沿革



1992年6月、リオデジャネイロで行われた地球サミットを契機に、21世紀の持続可能な開発には「淡水資源管理」が必要不可欠な課題であるという認識が国際社会で高まる。

1996年、関係機関に政策提言を行うことを目的に、水に関する国際政策のシンクタンクとしてUNESCO（国際教育科学文化機構）、WB（世界銀行）など水に関する国際機関等が中心となって世界水会議（World Water Council・WWC）が設立される。

世界水会議（WWC）の提唱により、1997年に「第1回世界水フォーラム」がモロッコ（マラケシュ）で実現。21世紀に向けた「世界水ビジョン」を策定することが決定される。

2000年3月、「第2回世界水フォーラム」がオランダ（ハーグ）で開催される。同フォーラムの閣僚級会議において「世界水ビジョン」が発表される。これにより、ビジョンの実行のための世界的枠組づくりがまとめられる。

2003年3月「第3回世界水フォーラム」が、日本（京都、滋賀、大阪一円）で開催される。第2回世界水フォーラムで発表された「世界水ビジョン」を受け、ビジョンからアクションへと結び付ける行動計画が策定、提示される。

「第3回世界水フォーラム」の分科会として実現した「世界子ども水フォーラム」に、32ヶ国109名の子どもたちが参加。

「世界子ども水フォーラム」の成果を受け継ぎ、そのビジョンと行動を引き継ぐため、2003年10月「世界子ども水フォーラム・フォローアップin広島」が日本（広島）で自主開催される。

そして今、「世界子ども水フォーラム」の精神と、広島に集まった子供たちの思いが「世界子ども水フォーラム・フォローアップ in宮城」に受け継がれています。

'92

'96

'97

'00

'03

'04



CHILDREN'S
WORLD
WATER
FORUM

世界子ども水
フォーラム

FOLLOW
UP ● IN
MIYAGI

フォローアップ
in 宮城



水でつながる

このフォーラムに至るまで

私たちの身近にある水は、地球環境の変化、人口増大、産業発展など今や地球規模で考えなければならぬ存在です。2003年3月、「第3回世界水フォーラム」が日本で開催され、日本国内に大きな反響を与えました。このフォーラムの中では、日本を含めた世界32ヶ国109名の子どもたちが参加した、「世界子ども水フォーラム」も同時に開催されました。

世界の国々で抱える様々な水問題について語り、話し合うフォーラムの席上、参加した子どもたちからひとつの提言が生まれました。「人間が生活し、生きていくうえで欠かせない水について、子どもの立場からもっとたくさんの仲間と意見や情報の交換をしたい。ネットワークの輪を広げたい！」という、子どもたち自身の声でした。

その、子どもたちの声は、2003年10月、広島県加計町において「世界子ども水フォーラム・フォローアップin広島」として実現しました。子どもたち自身の対話をメインとした広島での活動は、大きな成果をあげました。そして2004年、広島の子どもたちの思いが宮城の子どもたちへ「世界子ども水フォーラム・フォローアップin宮城」としてつながりました。

「世界子ども水フォーラム・フォローアップin宮城」は、宮城県花山村で開催されました。水に関心のある中・高校生、69名が全国から参加しました。ディスカッションを主とした3日間の大会のなかで、子どもたちが主体的に「考える、話す、体験する」ことを通し次代の水環境について様々な話し合いが持たれました。

はじめに
beginning message

集まる。

考える。

伝える。

話す。

体験する。

水を考える

このフォーラムの運営方法


子どもたちが、子どもたち同士で、子どもの立場から、多くの仲間と意見交換や情報交換を行い、パートナーシップやネットワークを構築していくこと。それが、「世界子ども水フォーラム・フォローアップin宮城」の開催趣旨です。そのため、このフォローアップin宮城では、運営企画の段階から子どもたちが話し合いのテーマや進め方を自ら決め、これをファシリテーターや大人たちがサポートする、という方法を取りました。それは、ひとつの新しい社会教育活動の試みでもあります。

フォローアップin宮城ではまず初めに、先の世界水フォーラムや、前回の広島での経験をふまえた子どもたちの中から「子ども企画委員会」が編成され、全国の水に関心のある子どもたちに作文公募を呼びかけました。これに応えた子どもたちの中から、宮城県花山村での3日間のフォーラムに参加する参加者を選定しました。子ども企画委員会には、大学生を中心とした「ファシリテーター」が加わり、子どもたちの議論を生み出すサポートをしました。フォーラムの全体プログラムや、分科会のテーマや進行に関しては、子ども企画委員会とファシリテーターがお互いに意見を出し合い、決定しました。そして、フォローアップin宮城の3日間のフォーラム期間中には、専門的なコメントやアドバイスに対応する「アドバイザー」、「記録係」、「サポーター」など、子どもたちの活動を支援する大人のスタッフを配置しました。これらのスタッフは、子どもたちの水辺での体験活動に取り組む市民団体や行政、市民などの連携と協力によってつくられました。

子どもたちが自立し、主役となってひとつの「場」を作り出すことを目指し、このフォローアップin宮城は運営されました。

私たちの、 3日間

フォーラムの内容

1日目	開会式		スタート地点。さまざまな土地から、新しい仲間が集合！ (開会宣言／開会挨拶／歓迎挨拶／開催趣旨説明／挨拶／参加者紹介／スケジュール説明／記念撮影)
	オリエンテーション		3日間を過ごす、暮らし方の約束、遊び方の約束をしよう (オリエンテーション)
	レクリエーション		どこから来たの？どんな名前？もっと知り合おう (レクリエーション／名刺交換会／花山音頭指導)
	キャンプファイヤー		大きな火をかこんで、輪になろう！踊ろう！ (キャンプファイヤー／花山音頭)
2日目	フィールドワーク a		水の源流を歩いてみよう (沢登り体験)
	フィールドワーク b		ダムを楽しむ！ダムを知る！ (Eボート体験)
	フィールドワーク c		料理で水を知る (はっとづくり)
	分科会		話し合ってみよう、水のこと (水に関する8つのテーマでトークセッション)
3日目	発表		自分の言葉で、思いを相手に「伝えて」みよう (分科会成果発表／講評)
	さよなら交流会		さよなら！そしてまた会おうね (閉会宣言／記念撮影／さよなら交流会)
			それぞれの、毎日へ

ステップ
マップ
step map



小さなふれあいから、 水のことを考えよう。

新川達郎（世界子ども水フォーラム・フォローアップin宮城実行委員長）

たくさんの人たちが、みんなで一緒に作ってゆくこと。それが、水の問題を考える上でも、人が社会を築いていく上でも、一番大切なことだと思います。「世界子ども水フォーラム・フォローアップin宮城」は、「みんなで作る」ことを大切にしました。

さて、私たちの身の回りでは、変化が起きています。例えば、台風のたびに起こる集中豪雨被害。水や自然が、少し変です。もしかしたら、それは地球全体に関わることも知れません。

私たちひとりひとりが今、自分たちの身の回りで起きている小さなことに、きちんと目を向けてみたら、どうでしょう。遠い問題だと思っていた皆さんの水に関する課題が、もしかしたらみんなの身近なものになるかも知れません。

私たちは、この地球という素敵な環境の中に生かされています。私たちが共に生き、地球の持つ生命を生かしていく。そんな思いを、今日、明日、あさってと、1日づつ感じ取っていただけることを願います。



新川達郎



佐藤千昭

水と空気のおいしい里、 ようこそ花山村へ。

佐藤千昭（宮城県栗原郡花山村村長）

花山村は水の豊富な土地です。北上川水系、迫川と呼ばれる宮城県有数の河川の上流に、花山村はあります。もちろん、この小さな花山村のなかにも、一迫川、長崎川、草木川と呼ばれる美しい川があります。また、村内の花山ダムは下流の洪水調整や水道、下水道、農用地の水不足解消のための機能を持ち、広く人々の暮らしに役立っています。

それだけではなく、花山村は、村の面積の約90%が緑の山林で形成されています。この豊かな花山村の森林が、私たちの村の歴史をつくり、食文化を育み、水の美しい流れを保ってきたといえます。森の自然のなかには、様々な生き物が溢れ、おいしい山菜の恵みを季節ごとにもたらしてくれます。そして、何よりもおいしい空気と水の恵みを運んでくれるのです。

この花山村を多くの子どもたちが訪れ、水と空気、そして自然のなかで様々な体験を積み重ねていくことを、私たちは心からうれしく思います。



坪香伸

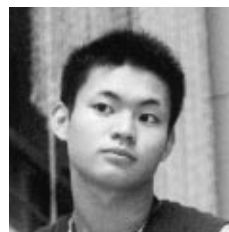


南部玲生

ふるさとの河川に親しもう。

坪香伸（国土交通省河川局環境課長）

全国からたくさんの方にお集りいただきまことにありがとうございます。台風10号が近づいているのが気がかりなのですが、どうか災害がないことを願うばかりであります。先日でも新潟、福島、福井でとても大きな災害がありました。川は一旦大雨が降ると洪水や土砂崩れというかたちで、キバをむくという恐ろしい一面があります。しかし日常での川や水は、私たちの生活に潤いを与えてくれます。また、楽しみやよろこびをあたえてくれます。みなさんにとって、「ふるさとの川」はどんな川ですか？とても良いと感じている方も、あまり良く感じていない方も、このフォーラムを通して今よりももっと川に魅力を感じてほしいと思います。より良い河川との関係をつくり、育てていくための活動を、みなさんと一緒にすすめていきたいと思っています。



森賢太

何ができる。何をしよう。 今、私たち、僕らの目線から。

南部玲生、森賢太、遠藤性、灰塚果苗（子ども企画委員）

世界の子どもたちとの触れあいの中から、水に関する違った考え方、苦しい現状があることを私たちは知りました。水に関するたくさんの価値観がある中で、私たちは何ができるだろう。そんな問いかけを日本の同世代の仲間たちに伝えていくことを目指し、「世界子ども水フォーラム・フォローアップin宮城」は実現しました。

フォーラムの主役は、子どもたちと若者です。私たちが主体となって話し合いを進めていき、水環境に関心を持つ仲間や活動の輪を広げていきたいと思えます。何かを始めなければ変わらない。「行動」のためのきっかけを、ひとりでも多くの子どもたちと共有していきたいです。



遠藤性

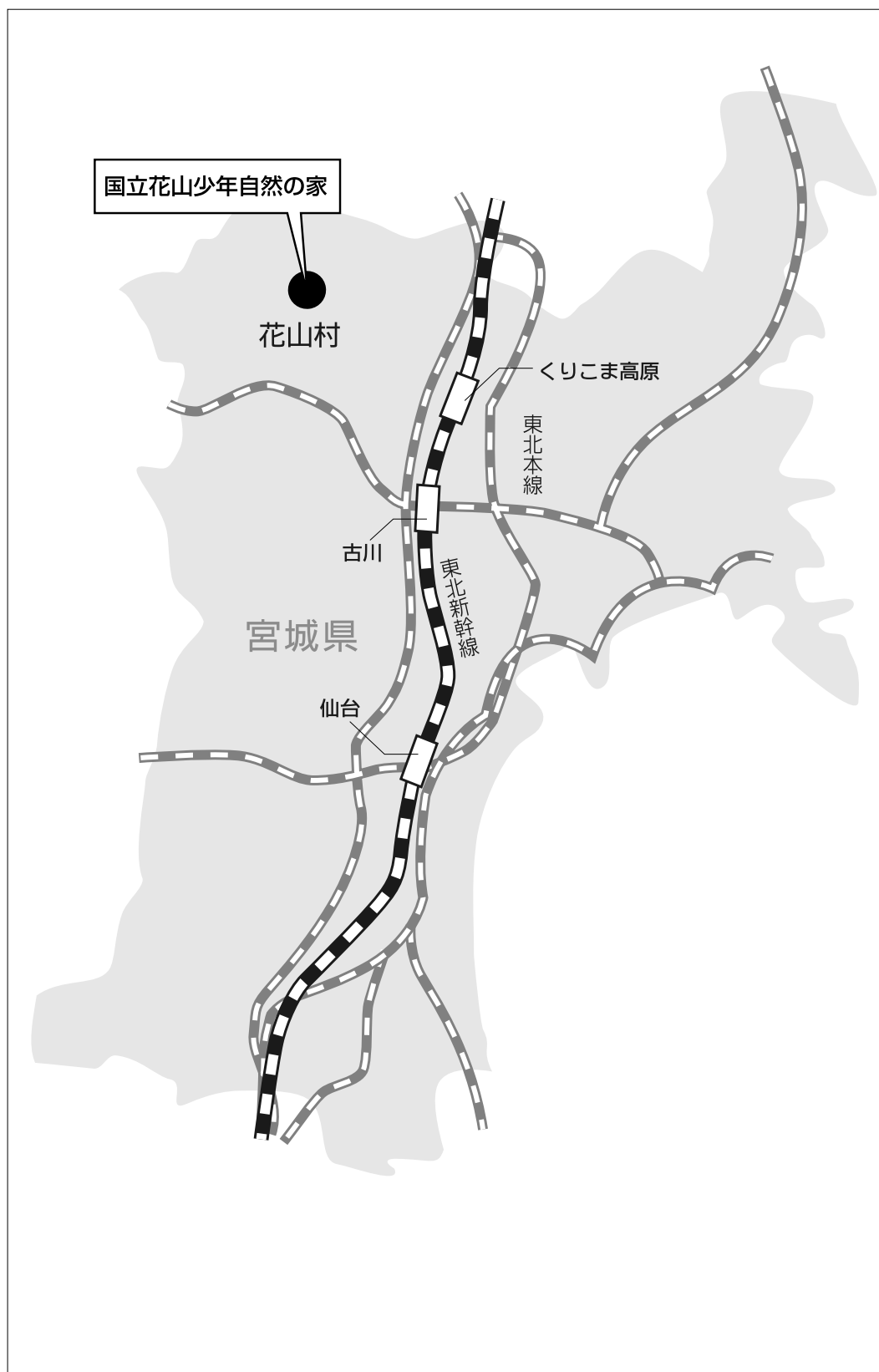


灰塚果苗

ごあいさつ
hello

ございん、 花山マップ

フォーラムの会場地図





さあ、 話しをしよう

子どもたちの、8つの分科会レポート。

平和と水。私たちのベーシック

分科会1●LOVE&PEACE&WATER

いのちの基本、「食べる」と「水」は とても仲良し

分科会2●かけがえない食料の水

自分の暮らしから見よう

分科会3●身近な水の利用

生き物がすむ水は、生きている水

分科会4-1と2●水辺の生物と水質

人のための土木、水のための土木

分科会5・6●人と水と土木

水が運ぶ、水が育む それぞれの風土

分科会7●地域と水

「伝える」と楽しい。「伝わる」とうれしい

分科会8●環境教育

トーク
セッション
talk session



平和と水。私たちのベーシック

分科会1●LOVE&PEACE&WATER

水を通して世界の平和を考える。水を通して世界中のひとたちとの「つながり」について話し合う。

LOVE&PEACE&WATER。この分科会は 水を通して世界の平和、日本と世界の人たちとのつながりについて考えます。

平和と水。このテーマのきっかけは、2003年3月滋賀県で開催された「世界子ども水フォーラム（CWWF）」にありました。

このフォーラムでは、世界中の子どもたちが日本に集まり、暮らしと水について話し合っていました。けれども、ちょうど同じ頃、世界中のメディアはイラク戦争の開戦を伝えていました。とても悲しい現実です。

「世界子ども水フォーラム（CWWF）」では、「戦争」という大人たちの行為が水環境にたくさんの影響を及ぼすことが報告され、集まった子どもたちに衝撃を与えていたのです。今もなお、世界で起こり続ける戦争。毎日の暮らしに欠かせない水。それが戦争によって奪われるとは、どんなことなのでしょう。水が深刻なダメージを与えられたとき、いったいどれほど多くの人たちが苦しい思いをするのでしょうか。

世界子ども水フォーラムに集まった子どもたちの強い思いが、その後、広島（世界子ども水フォーラム・フォローアップin広島）の子どもたちに受け継がれ、そして今、新しい仲間たちに受け継がれています。

平和と水のために私たちができることは何だろう。平和と水について、世界中に発信してみよう。さあ、スタートです。

高木駿（青森県）
野池芽衣（千葉県）
浅川美咲（東京都）
高橋磨澄（神奈川県）
植松智子（滋賀県）
時光珠実（岡山県）
中尾浩子（福岡県）
森賢太（滋賀県／子ども企画委員）
ファシリテーター：三浦初美（ガールスカウト滋賀県第35団）
アドバイザー：森本輝（国土交通省河川局河川環境課）
アドバイザー：中井裕真（財団法人日本ユニセフ協会）
補助・連絡：伊藤一彦（宮城県河川課）
記録係：金股模（水環境ネット東北）

水がない、という毎日。

（声）戦争が起ると、水を汲みに行くこと事体が、危険を伴います。アフガニスタンでは、泥水を飲むしかない、という暮らしに追い込まれていく人たちの現状があるそうです。

僕たちも、よくない水を飲むとおなかが悪く痛くなります。水に困っている人たちがいる、そんな暮らしを僕らの力で変えることができないだろうか。

（声）この分科会に参加してる私たちは、学校や地域でどんな風に水に関わっているの？僕らの力って、いったい何だろう。まずは特別みんなにも声を高くして言える、水への積極的な関わりについて教えてほしい。

（声）私は国連アナン事務総長婦人のお話を聞いたことがあったの。アフリカの水質について、とても大きな問題があると聞きました。それで子どもたちが健康を損なうことがあるって。

（声）学校では、授業の一環として身近な川などの水質を調査する活動があるんだ、ってことは分かるんだけど、でも何だか1日だけ、その日だけのイベントだけで終わらせたくないんだ。どうしたらいいんだろう。

（声）そうだね。環境、環境って言うけれど、でも実際にはたいへんなことも多い。なるべくたくさんの人たちに活動が広がっていくためにはどうしたらいいと思う？

（声）たいへんなことでも、友だちと一緒になら楽しいよ！友だちと一緒に楽しみながら出来たらいいなって思う。

（声）そうだね、基本は仲間。自分たちの住んでいるところをきれいにしたい、誰もが同じ気持ち。友だちと一緒になら、ちょっとたいへんなことも出来そうだし！そう僕は思うな。

誰もが同じ？水は同じ？

（声）水とひとくちに言うけれど、例えば、硬水と軟水の違い。自然の水と、水道水の違い。みんなは、この水の違いをきちんと分かるかな？水といっても違いがあるように世界中には、水に対する様々な考え方、付き合い方があるよね。世界中にちゃんと目を向けたら、理解できないこともたくさんあると思う。そのとき、僕ははどうしたらいいだろう？

（声）ほんとうの平和のためには、まず「分かりあうこと」、「仲間をつくること」！

（声）ヨーロッパ、アフリカ、アジア、。。世界には様々な国があるね、文化、地形、人口の違い、などなど。ギャップはたくさんあるよね。そのギャップを、「埋める」ことを考えると何だかとても遠い道に感じてしまう。でも、「違いを理解することから始めてみたらどうだろう。それは、たぶん人間の人権と同じように。

水の人権、水の権威。

（声）水と共に暮らせることは、人間の人権のひとつとして守りたい、その国の人々の文化として独自の水との関係も守りたい基礎だと思う。それは、人の人権と同じように、大切にしなければいけないと思う。でも、悲しいことだけど、水が原因で争いが起こることもある。

コミュニケーション能力。

（声）僕たちだって、普段友だちとけんかをしてしまうことがある。そんなとき、どうしよう。楽しいこと、なにか一緒に幸せになること、例えば、「歌を歌うこと！」言葉が分からなくても、歌は仲良くなるための最初の一步になるよ！

（声）そうだね、そして、そこからもっと広く世界を見つめて、世界中の人たちと対等に話し合う場所に私たちは行きたい。そのための「言葉」を、私たちはもっと知りたいと思う。

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 宮城

源流はここにあり ございん花山
緑の18ネットワーク

分科会名:

LOVE & PEACE & WATER

多くの人を助けるためにあらゆる方法を考えることが必要

この方法とは!!!

水フォーラム!!

- 日本中に仲間ができる
- あつき討論ができる
- 成長できる
- 木々々々興味を持てる
- 視野が広がる
- やりたいことが見つかる

↓

だから継続しよう!!

しかし、話し合いだけで終わらんとして

フォーラムの後で何ができるの?

- 世界・日本・地元を知る
- (例) ネット、資料作成、CM作成、コミ
- 世界・日本・地元の仲間を増やす
- こつこつ募金
- こつこつ節水、清掃
- こつこつ自分を磨く
- 英語は平和の第一歩
- (ダンス・歌を上手にさせる)

音楽に国境はない!!

WE ARE THE WORLD~

浅川美咲 東京都 中1
高木駿 青森県 中1
時光珠実 岡山県 中2
野池芽衣 千葉県 中3
茂木優子 千葉県 中3
高橋磨澄 神奈川県 高1
中尾浩子 福岡県 高1
森賢太 滋賀県 高3
植松智子 滋賀県 高3

地球家族

話し合い

仲間

思いやり

コツコツが
いろんな花をさかす!



高木駿



野池芽衣



浅川美咲



高橋磨澄



植松智子



時光珠実



中尾浩子



森賢太



三浦初美



いのちの基本、「食べる」と「水」は とても仲良し

分科会2●かけがえのない食料の水

いのちの基本、「食べる」と「水」はとても仲良し。いのちを支える水は、わくわく楽しい。

かけがえのない食料と水。この分科会は、水と食料について考えます。水は、食生活に深く関わっています。ご飯を炊くとき、お茶を入れるとき、必ず水を使います。人間のからだの70%が水分。そして私たちの「食べる」という営みも、水の恩恵によって成り立っています。家の水道の蛇口をひねると、いつでも簡単に水が出てくる現代の日本。水の大切さを、食を通して考えてみませんか？

阿部謙信（福島県）
土屋智花（静岡県）
宮永幸則（兵庫県）
最明和美（岡山県）
宮崎愛美（愛媛県）
橋田銀河（高知県）
飛驒ゆり愛（宮崎県）
中川真希子（宮崎県）
灰塚果苗（神奈川県／子ども企画委員）
ファシリテーター：中村香菜（東北芸術工科大学環境デザイン学科）
アドバイザー：芦野眞一郎（北方自然と文化の会）
アドバイザー：西川和雄（国土交通省東北地方整備局）
補佐・連絡：菅原隆（宮城県砂防水資源課）
記録係：大友佳代子（水環境ネット東北）

みんなが毎日飲むものは何ですか？

（声）1日の暮らしの中で、どんなときに、どんなものを飲んでいるのかなあ。

（声）お風呂上がりや食後、それに、テレビをみながらリラックスして飲むよね！例えば、スポーツ飲料、オレンジジュース、牛乳、ココア、りんごジュース。もちろん、コーヒーやお茶も大好き。

（声）1日を通して、みんな何気なく様々なものを飲んでいるんだね。じゃあ、「水」そのものを飲む人！

（声）もちろん水は毎日飲むよ。

（声）じゃあ、どんな水？それは、水道の水？

（声）それもある。だけど、ミネラルウォーターや、浄水器を通した水のときもあるよ。水道の水がそのまま飲めるって便利なことだけど、水道の水が危険にさらされている、という地域もあるんだよね。直接口に入る水が最も危険、そんな暮らしはとていやだと思う。

「食べる」ことに関わる水

（声）日常生活の中の水は多様だね。例えば、料理を作る前に使う水。野菜を洗ったり、下ごしらえをする時にも、たくさん水を使っている。これは、食べることに関わる水、だね。

（声）あ！そうだ、食料そのものを作る、つまり農業のときに必要な水。これも大事な水だ。

日本の料理は、「水」の料理？！

（声）ところで、みんなの住む場所で「これが僕たちの郷土料理だよ！」と自慢できるものはあるかい？

（声）あるある。九州では、「水炊き」という料理があるよ。

（声）わあ、おもしろい。まさに水が主流の料理だね。東北には「はっと汁」という料理があるよ。水で捏ねた小麦粉を、あつあつの具沢山の汁でゆでて、そのまま汁と一緒に食べるんだ。水炊き、はっと汁、それに普段の味噌汁もそう。日本の主食のご飯を炊くときも水が欠かせない！日本の料理はまさに「水」の料理だよ。

「食べる」ことを通して私たちが出来ること。

（声）毎日ご飯を食べるように、毎日使う「水」に対して、できることってないかな？野菜を洗う、お皿を洗う、煮たり炊いたり、茹でたり。料理をつくるのは、楽しいよね。そんな楽しさの中で、水を大切にするにはどんなことをしたらいいだろう。

（声）お米をといだときのとぎ汁を、植物に再利用したり、洗いのものをするときに使ってみる。それから、無洗米、というものも使ってみたらどうかな。

（声）野菜を洗うときには、溜水をして使ったり、泥や大きな汚れは前もって雑巾などで拭きとっておくのもいいと思う。水を流しっぱなしにしたり、多すぎる量で煮炊きをするのも気をつけよう。

（声）そして、第一には洗剤の量を減らしたいよね。自分たちの手もとに届いた水は、なるべく汚さず、無駄にせず、また自然に返してあげる。そんな毎日を、僕たちひとりひとりが始めたら、どうだろう。

「食べる」ことを通して水の循環に目を向けよう。

（声）ところで、みんなは普段どんなものを食べている？私たちが大好物！っていうものから、考えてみようか。

（声）オレンジ、チョコレート、りんご、トマト、お刺身！あ、でも外国で作られているものもたくさんあるんだね。

（声）ほんとだ。輸入された果物、牛肉、遠い海で捕れた魚、小麦粉、、、加工済みで輸入される外国産の食品、、、

（声）じゃあ、たとえばその中に、汚染された海で捕れた魚や、汚染された水で作られた食料が混ざっていたら？たいへんなことになるよね。

（声）うん、そうなんだ。だから僕たちは、まず自分たちの身近な水から目を向けて、同時に水の「循環」という大きなつながりも見ていかなければならないんだよ。川や海、土や大気を通して、世界の水は循環している、世界の水はつながっている、ってことをね。

世界子ども水フォーラム・フォローアップ 宮城

御流はここにあり こさいん花山
海外1部ネットワーキング

分科会名: 「かけがえのない食料の水」

メンバー

トノ、アッキー、ハッピー、
トモカ、カズミ、シヤマ、ユリエ、
マッキー、カナエ、カナツノ、
シンちゃん、にしやん、
あおよう、アラレちゃん

まとめ

私達が日頃食べたり、飲んだりしている食料の多くが世界各地で作られたものです。それらの食料は、水を利用して育っています。つまり、私達は世界じゅうの水の恵みを受けて生きているのです。今、世界じゅうで起きている数々の水の問題を人ごととは思わず、この分科会で考えたり学んだりしたことを日常生活に生かしていきたいです。

食事の時に
飲む水

朝	お茶、牛乳、ヨーヨー
昼	お茶、牛乳、ココア
夜	お茶、スポーツ飲料、酒(大人)

〇気付いたこと
〇いっぱい飲んでた
お茶→1杯ぐらい・牛乳→約200ml
ヨーヨー・紅茶→ティーカップ
〇種類が多かった
お茶、牛乳、ヨーヨー、ジュース、酒(大人)
〇多分アジア1ゼイタク!!
〇水は、水道水、蒸留水、ミネラルウォーター

料理を作る時に
使う水

たくさん使う	少しだけ使う
材料などを洗う時 食器を洗う時 米を洗う時 目分量を計る時	ご飯を炊く インスタントなどのスープの粉を溶かす時 煮ものに使う時 味の調整

改善案①
食器、野菜などを洗う時は前もって、どろを
取っておいて、洗う時はたらいに水をためる。
改善案②
米を研ぐ時の注意 → 水を流しすぎないように
米のとぎ汁を出さないよう無洗米にする

そして
世界の水へ

感じたこと
〇普段食べてるモノは外国が多かった。
〇国産は季節物などが多い。
〇主食が両極端だった。
〇国産はフルーツ系が多い。
〇必要な食べ物を栽培するということから、水はとても大切だと思った。

・研ぎ汁の利用 → 研ぎ汁を植物の栽培に使う
⇒ 実際は洗顔にもいいと言われている
(お肌はスベスベ米ヌカパック!)

海外	日本
からい ジュース用の ポテト カレー フルーツ ヨーヨー カレー パン 小麦	リンゴ 米 春菊 たけのこ 枝豆 いんげん 肉 肉 肉



阿倍謙信



土屋智花



宮崎幸則



最明和美



宮崎愛美



橋田銀河



飛騨ゆり愛



中川真希子



灰塚果苗



中村香菜



自分の暮らしから見よう

分科会3●身近な水の利用

それぞれの水。もっと自由な使い方を考えよう。

この分科会では、家や学校などでいつも使っている身近な水について話し合います。

さまざまな地域の人たちと意見交換し、「こんな水の使い方や節水の方法があるよ」ということをたくさんの人たちに広げていきたいと思います。

私たちににとっての、身近な水の利用についてお互いに考え、一緒に話し合ってみませんか？

小林牧子（宮城県）
中村翔也（宮城県）
伊藤駿一（福島県）
松下まゆみ（東京都）
小川亜弥子（静岡県）
定本麻梨（岡山県）
安富佳奈（岡山県）
村中志帆（熊本県／子ども企画委員）
ファシリテーター：鈴木智美（東北芸術工科大学環境デザイン学科）
ファシリテーター：会田朱香（東北工業大学工学部環境情報工学科）
アドバイザー：山田一裕（岩手県立大学総合政策学部）
アドバイザー：小山哲也（一迫町水道課）
補助・連絡：小林和重（宮城県河川課）
記録係：関根ふじ子（水環境ネット東北）

身近って、遊べること！

（声）みんなの持っている「水」のイメージを話してほしい。
例えば、「きれいな水の川」、「きたない水の川」というみんなのイメージは、具体的に言うことができるかな？

（声）じゃあ、まずきれいな水のイメージ。

（声）魚や、蟹がいっぱいいる。蛸が泳いでいたり川底がきれいに見える。コンクリートで固められていない、水辺の草が多い川。それに、じゃぶじゃぶ遊んだり魚釣りができる川！

（声）じゃあ、きたない川のイメージは？

（声）川底が見えない。ぬるぬるした川。ゴミが浮かんできていたり悪臭がする。子どもたちの気配がない、誰も遊んでいない川。魚釣りもできないし、水の流れもないような川はがっかりだね。

（声）私たち、もっと水と遊びたい。もっと水と上手につき合いたいね。そのために、どんなことができるかな？

身近な水と上手につきあう方法。

（声）私たちが普段、毎日使っている水って、「水道水」だよな。私たちは、毎日水を何のために使っているかな？

（声）顔を洗う、そのまま飲む、手を洗う、トイレ、洗濯、お風呂、プール、、、。いろいろあるよね。

（声）じゃあ、水道水がある日なくなってしまったとしたら？どうしたらいい？

（声）何か別なもので代わりにするものがあるかもしれないね。

（声）海水！それに雨水、湖、沼、地下水、井戸水。

（声）毎日使っている水、「水道水」にだけ頼るのではなくて、今みんなが言ったような、替わりになる身近な水をもっと上手に使うことができれば、それがきっと水にやさしい生活だよ。

遊んだり、やさしくしたり。私たちのパートナーは水。

（声）海水は、何に使える？

（声）そうだね、使うっていうよりも、やっぱり海水浴！海は僕たちの楽しい遊び場だよ。でも、良く考えてみると実はもっと利用できるのかもね。例えば、お皿を洗ったり、トイレの浄水には使えそう。

（声）それに、海水を取り出して塩を作ったり、海水を豆腐づくりに役立てたりする地域もあるそうだよ。

（声）海に囲まれた日本ならではの海水の様々な利用法、なんだからもっと知りたくなるね。

（声）じゃあ、次は川。

（声）わー、川はたくさんもののに利用できるよ。洗濯、トイレの浄水、水力発電、、、。日本は山国だから、そこから流れてくる急流の川が、やがて平野に流れてくる。海の暮らしと同じように、川と上手につき合ってきた日本の暮らし、こっちもなんだかとっても楽しそうだ。

（声）雨水はどうだろう？

（声）植物の水やり、トイレの浄水、貯水。そうそう、災害時や非常時にろ過などをして飲料水として代用できる意外な助っ人。

（声）じゃあ、井戸水、地下水はどうだろう？

（声）冷たい水、っていうのが特徴だから、冷蔵庫の替わりになるよ。野菜やスイカを冷やして食べたいな。

（声）何気なく水道の水にだけ頼り切るのではなく、もっと身近かにある様々な水に目を向けて、それぞれとどんな風につき合うか、考えていったらきっと楽しい暮らしだね！

分科会名：身近な水の利用

私たちがまず始めに話し合ったことは、日常生活で使用する水についてです。

私たちが普段から使っている一番身近な水といえば「水道水」です。

そこでまず、朝起きてから使う水について考えてみました。顔を洗う。そのまま飲む。手を洗う。トイレ。洗たく。お風呂。プール。などの意見があげられました。

ですが、普段からこんなに多く使用している水道水が使えなくなったらどうなるのか。水道水のかわりになる水はないか考えてみました。

すると、海水。雨水。川の水。湖。沼。地下水。井戸水。水蒸気。売っている水などが例にあがり、それぞれに意見を出し合いました。

その中で雨水が一番水道水に近い利用ができるのではないかと考えるに達し、その結果、風呂やトイレ、洗たくには使えるけれど、飲み水としてはまだ「まだ衛生的に問題があること」に気がつきました。そこで雨水を飲めるくらいまできれいにするにはどうしたらいいか考え、雨水を使って節水をしたいたら、どうだろうと考えました。そして、さまざまな節水方法を定めて、生活排水を減らし、1リットルの水をきれいにすることによって、水環境を良くする第1歩をふみだそうという結論に達しました。

メンバー紹介

- ・まっさー ・しゅん ・かや公
- ・まっつん ・あーこ ・定(さた)
- ・安(やす) ・しほ



小林牧子



中村翔也



伊藤駿一



松下まゆみ



小川亜弥子



定本麻梨



安富佳奈



村中志帆



鈴木智美



会田朱香



生き物がすむ水は、生きている水

分科会4-1 ●水辺の生物と水質

生き物がすむ水は、生きている水。生き生きとした水を守るために、私たちができること。

緑でかこまれた川。流れていく川。川と共に暮らす様々な生き物たちのことを、考えてみよう。水辺の様々な鳥たち、カジカ、サワガニ、メダカ、、、、。

けれども今、川の姿は変わりつつあります。水質汚染、外来種の放流によって在来種の絶滅や病気が発生するなど、生き物を取り巻く環境は厳しくなりつつあります。川に住む生き物たちを守るために私たちが出来ることを、これから考えてみましょう。

小野太一（青森県）

手塚優馬（宮城県）

山田百納（宮城県）

西林ゆうか（宮城県）

飯塚航（宮城県）

佐野真吾（神奈川県）

野村泉（静岡県）

岡志桜里（滋賀県）

三浦和之（宮城県／子ども企画委員）

ファシリテーター：寺内雅晃（大阪府立大学大学院農学生命科学研究科）

アドバイザー：呉地正行（日本ガンを保護する会）

アドバイザー：佐藤伸吾（国土交通省北上川下流河川事務所）

補助・連絡：田中里佳（国土交通省北上川下流河川事務所）

記録係：佐藤正記（水環境ネット東北）

（声）知ってる。絶滅の危機にさらされている生き物について書かれたデータ集だね。絶滅や、数の減少など、様々な地域で危機にさらされている生き物が多くなっているそうです。メダカでさえレッドデータブックに載っているんだよ。知っていたかい？

（声）私の住んでいるところにも、レッドデータブックに載っている生き物があります。カワバタモロコ、という魚。

（声）僕のところには、トウホクサンショウウオ。

（声）大阪では、ハクセンシオマネキ、というカニ。

（声）今日、集まったみんなの中で、生き物を守る活動をしている人はいるかな？

（声）僕は、日本に昔から生息していた生き物たちを守るための活動をしています。ブラックバス、という外来の魚が増えてしまって、昔から日本にいた魚を含めた生態系が崩れてしまうことがあるんだ。そこで、少し変わった方法をとるんだよ。

まず、ブラックバスが卵を産みやすい人工産卵床をつくるんだ。もちろん、ほかの魚もそこに卵を産むんだけど、そのいくつもの魚の卵の中からブラックバスの卵だけを選別して、卵を減らしていくんだ。そうして、外来種の繁殖を抑えていく活動をしているんだよ。

生き物との共存、共生って？

（声）貴重な生き物が、なぜ減ってきているんだろうね。人間の影響は、どうやら大きいといえそうだね。

（声）うん、でも反対に、人間がきちんと生き物に目を向けていけば、人間の力で生き物たちを守り、繁殖させていくこともできるんだよ。

（声）生き物と一緒に生きる。どんな活動ができるだろう。

（声）まずは、自分たちの住んでいる場所にどんな生き物がいるのかを知ってみるのはどうかな。

（声）うん。それからもう一歩進んで、その生き物たちの間にどんな「つながり」があるのかを考えたいと思う。例えば、ホタルのいる川はどんな水質なのか、水だけではなく、川辺の草とホタルはどんな関係なのか、という風に。ひとつのことからつながっていく先のことまで、探検するみたいに！

（声）そうだね。自分の家のまわりには生き物がいない、とか川はもうよごれてしまった、とかきらめるのではなく、「どうしてそうなったのかな？」って、その先に一歩行ってみるっていうことだよ。

（声）共存と共生、言葉にするとむずかしいけれど、自分たち人間も含めて、どうやったらお互いが一緒に生きていけるか、バランスを考えながら、ね。

みんなの近くにはどんな生き物がいる？

（声）全国から、いろんな子どもたちが集まったね。みんなが住んでいる場所は、違いを持ったいろいろな場所、ということだね。

（声）みんなの住んでいる近くには、どんな生き物がいるのかな？教えてほしい。

（声）私が住んでいる場所は、都市部なので、あまり良く分からないな。

（声）僕の家まわりはほとんど田んぼと山です。山には、タヌキやキツネがでることもあるよ。

（声）私のおばあさんは、ヒグマを見た、と言っていったわ。

（声）僕の家近くの川には、カワセミという鳥がいるよ。この鳥は、水のきれいな場所にいるそうです。

（声）なるほどね。ひとくちに生き物、と言ってもそれぞれの暮らす場所によって、生息している生き物のレベルが違うんだね。私たちが暮らす場所がどんな場所なのか、違いや、地理や植生、生き物たちの生息エリアの違いとして見てみることは大事だね。自分たちの暮らしを知ることにもなるし、共に生きている生き物たちを知ることにもなるね。

危ない、生き物？！

（声）レッドデータブック、というものがあります。

分科会名：④-1 水[💧]辺の生物と水質(1)

「自然も身近に感じるときはいつですか。」

「身近に感じる生き物はなんですか。」

このような問を受けた時、あなたは何か想像できますか？

案外想像できない。でしょ？

普段生活する中で、自然・生物を意識することは少ないのが実情です。しかし私たちが地球上に生きているということは、他の生物 全てと ~~つながり~~ ^{つながり} がある。また、絶妙な ~~バランス~~ ^{バランス} があることを示しています。

自然と一体感を感じるために私たちにできること、それは、「自然を体験する」 ことです。今回のフォローアップ大会の中での沢登りや Eポート体験もその一つです。

自然から得た感動を、自然を守る力にかえましょう!!

私たち人間も自然界の生物の一員であることを忘れず、いつでも自然の循環を意識していかなければなりません。

みなさん 自然[💧]と共に生きましょう

青森県 小野 太一

宮城県 三浦 和之

宮城県 手塚 優馬

神奈川県 佐野 真吾

宮城県 飯塚 航

滋賀県 岡 志桜里

宮城県 西林 ゆうか

静岡県 野村 泉

宮城県 山田 百納

大阪府 寺内 雅晃



小野太一



手塚優馬



山田百納



西林ゆうか



飯塚航



佐野真吾



野村泉



岡志桜里



三浦和之



寺内雅晃



生き物がすむ水は、生きている水

分科会4-2●水辺の生物と水質

生き物がすむ水は、生きている水。生き生きした水を守るために、私たちができること。

水辺の生物と水質を考える分科会4のパート2。
パート1に引き続き、川と共に暮らす様々な生き物たちのことを、考えてみよう。

新田周作（北海道）
富岡奈々子（栃木県）
市川美智華（静岡県）
小川久弥（静岡県）
有木汐奈（愛知県）
上村美笛（大坂府）
津賀尾雄一（熊本県）
矢野さつき（大阪府／子ども企画委員）
ファシリテーター：里太介（広島国際学院大学）
アドバイザー：江成敬次郎（東北工業大学環境情報工学科）
アドバイザー：黒澤策郎（国土交通省東北地方整備局）
補助・連絡：飯田学（国土交通省東北地方整備局）
記録係：谷田貝泰子（水環境ネット東北）

知識をもとに、改善策を考える。

（声）はっきりと目に見える形で、「僕らの水があぶないんだよ。」と、知ることは、とてもつらいことでもあるよね。

（声）うん、確かに。でも、そこから、意識改革が生まれ、ここから変えていこう、という思いが生まれてきたらいいんじゃないのかな。

（声）そうだね、例えば汚れた川だからこそ、何をしたらいいか。みんなのできることはないか、そんな風に考えていったら、仲間も集まってくるよね。

水質を改善しよう！

（声）水質改善、なんだかむずかしそうだね。

（声）そんなことはないよ、ひとくちに水質改善といっても、いろいろなやり方があるんだよ。

（声）例えば？

（声）まずは川のそうじ！基本だね。たまったヘドロを取り除いたり、たいへんだけど、地域の人みんなでやれば、きっと環境に対する意識も高まると思うんだ。

それと、なにかおもしろいアイデアで水をきれいにする。例えば、川の浄化のために、炭を入れる。

（声）それから、はっきりと罰金などで処罰する、という方法もあるよね。でも、やっぱり僕はもっと楽しく水質改善をしたいな。

（声）例えばどんなこと？

（声）そうだなあ、きちんとゴミを捨てると、ありがとう！なんておしゃべりしてくれる楽しいゴミ箱を作ったり。

水辺に草などを植えて、景観としても楽しめるような。

（声）なるほど！楽しく水質改善。これからのおもしろい可能性だね。

水の知識をわかちあおう。

（声）私は日頃から、水質や環境についても本を読んだり、インターネットを使って知識を増やしたりしています。

でも、私が知っているだけでは広がらないので、その知識を地域の人たちに知ってもらうために、様々な活動をしました。文化祭で水質に関する発表をしたり。

（声）私は中学校で水環境に関する壁新聞をつくり、コンテストに応募したりしました。

（声）私の高校では、大学から専門の先生を招いて講演会などを開催したことがあります。植物や、生物、水に関するより高度な専門知識に触れる機会を自分達の手で作り出す。また、それを周囲のひとたちに分かりやすく伝えていくことって、大事だね。

意識改革と仲間づくり。

（声）水が今どんな環境におかれているか、ということを知るためには、やっぱり目に見えるものでみんなを説得していかないとダメだね。

（声）うん、そうだね。みんなには、簡単な水質調査の方法を知ってもらいたいと思います。

水質調査には、大きくわけてふたつの方法があるんだ。ひとつは科学薬品を使って分析する方法。もうひとつは、水生昆虫などの生物を使って分析する方法なんだ。両方の調査の長所をうまく使って、両方の調査から世界の水環境を知ることができる。そんな人材として子どもたちが育ってくれたらとても心強いね。

分科会名：水辺の生物と水質②

今までの活動

- ・水質調査
(水生昆虫・化学薬品)
- ・ゴミ拾らい
- ・国語学習
- ・地域への呼びかけ

今後の活動予定

- ・意識改革
- ・情報交換
- ・仲間をえらす

分科会で話した事

- ・今までの活動
- ・今後の活動予定
- ・水質調査
- ・水質改善 ←道頓堀川
- ・まとめと感想

水質改善

実際に行われている活動

- ・炭による浄化(栃木県)
- ・川ろし
- ・自治区により川を管理(熊本)
- ・10mおきにゴミ箱を設置(シンガポール)
- ・ゴミを捨てると罰金5万円(シンガポール)

私たちが考えた改善方法

- ・おもしろいゴミ箱を設置する。
(しゃべる音楽が流れる)
- ・芸能人による宣伝
- ・ゴミ自慢をなくす
- ・森を植える
- ・罰則を強化する

水質調査

方法① 理化学的調査

長所：再現性がある。
数値による表示ができる
(比較ができる)

短所：一時的なものではない

方法② 水生昆虫による調査

長所：長期的な状態が分かる
短所：数値化しにくい(比較できない)
地域によって違う

道頓堀川

現状

- ・カーネルおじさんが流る
- ・ゴミが多い
(カサ・自転車・粗大ゴミなど)
- ・ヘドロが多い
- ・魚がいない
- ・臭い

原因

- ・ホウキ捨て
- ・ゴミから流れてきている

対策

- ・NPOが真珠貝を流めている。
(しかし目に見える変化はなし)
- ・ドブ拾らい

まとめと感想

この結果をふまえて、自分達が考えた事
特にその中でやりたい事を一つでも実行
していきたいと思います。



新田周作



富岡奈々子



市川美智華



小川久弥



有木汐奈



上村美笛



津賀尾雄一



矢野さつき



里太介



人のための土木、水のための土木

分科会5・6●人と水と土木

人の力は大きい、水の力は大きい。支え合うために、知り合おう。

人と土木。この分科会では、道路や鉄道、トンネル、橋など、身のまわりにおいて私たちの生活に欠かせない土木について考えていきます。

土木技術によって生活は便利になる反面、環境破壊の原因にもなります。水環境も、土木の技術を大きく受けるもののひとつです。環境との調和を保ち、これから先、水と土木が共存する土木をつくるにはどうしたらいいでしょう。身のまわりにある土木、考えてみませんか？

棟方愛理（青森県）
上戸宙（宮城県）
金澤幸（宮城県）
岡田明雄（栃木県）
鈴木理恵（静岡県）
仁科千鶴（静岡県）
藤原直人（愛媛県）
太田匡洋（青森県／子ども企画委員）
遠藤性（静岡県／子ども企画委員）
ファシリテーター：木村健一（八戸工業大学建設環境工学科）
ファシリテーター：工藤智代（東北工業大学工学部環境情報工学科）
アドバイザー：佐々木正人（川と道路のなんだろう？を支援する会）
アドバイザー：高橋一悦（宮城県土木部砂防水資源課）
補助・連絡：志賀憲一（宮城県砂防水資源課）
記録係：佐藤聖介（河川環境管理財団）

ダムと人。

（声）水に関わる土木って、みんなどんなものを知っている？

（声）用水路、放水路、橋、上下水道。この辺は、身のまわりにあるものだね。それに護岸、堤防、取水堰、運河…。

（声）水環境に大きく関係する土木として、最初にあげられるのは、やっぱりダムでしょう。

（声）そうだけど、大規模な土木技術で、ふだん多くの人が住む場所から離れているから、ダムは僕らの暮らしから遠いなあ。

（声）うん、でもね。ダムによって様々な体験をしてきた人たちもいるんだ。たとえば、ダムを作るかわりに、自分たちも住む地域や村ごと移住を求められる人たちがいるんだよ。

（声）たくさんの人たちにとって必要なものでも、どこかで誰かが悲しい思いをするのはいやだね。どうしたらいいんだろう。

ダムの機能と役割。

（声）ダムの機能や役割をひとつひとつ考えてみよう。

（声）最初の大きな役割は、治水、利水。もっと違う言葉で簡単に言うと、川の水を調節して、水を供給することだよ。

（声）洪水が起こらないように調節したり、逆に、水が不足しないようにするのが治水。そして、農業用水や飲み水、工業用水を供給するのが利水。そして、発電という役割もあるね。

（声）やっぱり大切な機能だし、ほんとうにたくさんの人たちの暮らしに関わってくることなんだね。

ダムの新しい役割があるかな？

（声）うん、どれも大事なことだね。でも、僕らはもっと新しい役割を考えられないかな。たとえば、子供たちがもっと楽しく遊べる環境作りをしたり、観光のためにダムを利用してみる。

（声）ダムを村のシンボルとして、もっと親しみやすくするのはどうかな？いいところなんだよ！って、もっとみんなに知ってもらって。都会では見られない水鳥の飛来する素敵な風景が見られたり、そんな環境をつくることもひとつだと思う。

（声）ほんとだね。ダムをつくって公共事業を増やすことも雇用の機会を生み出すための方法かもしれないけど、きっとこれからは、もっとたくさんの方の方法を見つけられるよ。人に愛されるダム作りの方法を！

ダムの与える影響。

（声）ダムには、どうしても様々な課題が出てくるんだ。当たり前だけど、まずとても大きなお金がかかる。それに、山の木を切る必要が出てきたり、川を遡る魚たちに影響を与えてしまうんだ。

（声）魚だけではなく、昆虫や鳥、様々な動物たちにも…。

（声）そうだね。ダムを作ることによって、たくさんの人や車が往来することになるから、騒音や公害、あるいは観光客の落とすゴミ、という問題も出てくるかもしれない。

理想のダム。

（声）こういう課題のひとつひとつを、どうやって解決していったらいいんだろう？

（声）たくさんの方が関わることから、たくさんの方が共感できる理想のダムを描いてみたらどうかな！

（声）わ、おもしろい！地下にダムをつくる！これなら、移住によって悲しい思いをする人が少なくなる。

それから、ダムの真ん中に緑の島が浮いているアイランドダム！真ん中の緑の島に、たくさん動物たちも住めるし、島で遊ぶことが出来るよ。

（声）大きなダムじゃなくて、小さなダムを分割してつくる、分割ダム！

（声）どう思う、みんな？



分科会名：人と水と土木

堤防ダム(28歳)

人と水と土木

人と水は切っても、切れない関係!!

③支える...土木技術

ダム

水に閉る未来

用水路
取水路
上下水道
防自然型護岸
堤防
取水路
橋梁(門)
堤防
堤防

③ダム

ダムについて、詳しく見てみましょう

③ダムの役割

- ① 川の水を調節、水を供給する
- ② 町もつなぐ(役割分担)
- ③ 公共事業を増やす(雇用)
- ④ 観光、遊覧(泳ぐ、つり)
- ⑤ 村おこし、シンボル
- ⑥ 水をためる
- ⑦ 工業用水
- ⑧ 安全(洪水)を防ぐ
- ⑨ 大きなゴミを流さない
- ⑩ 木魚が集合する
- ⑪ 水力発電
- ⑫ エネルギーをためる

③与える影響

- ① 森林伐採(緑の減少)
- ② 税金のムダ使い(多額)
- ③ 川に魚が戻れない
- ④ 生態系が壊れる(鳥、昆虫)
- ⑤ 公害(騒音、etc...)
- ⑥ 移動問題(住居etc...)
- ⑦ 反乱運動などによる人間関係
- ⑧ 観光客のゴミ
- ⑨ 交通事故(動物への被害)

理想1 分割ダム

・利点
・住居の安全
・少くとも

理想2 アラビヤダム

・利点
・森林伐採防止

理想3 地下ダム

・利点
②に同じ

まとめ

人と水は、切っても切れない関係を築いて支えているけれど、土木で あることを知ろ。私達分科会は“土木工事”というものに対する考えが、大きく変わった。特にダム建設によって、周辺の環境が破壊されてしま、という負のイメージが、強められた。実はその影で、長年にわたる環境、動植物調査、非生態系の変化を最小限にする行政の役割が働いていることを知ろ。私達も、今回交換し合、意見を述べた。地域の環境を助けられる活動を、これから続けていきたいと思う。



棟方愛理



上戸宙



金澤幸



岡田明雄



鈴木理恵



仁科千鶴



藤原直人



太田匡洋



遠藤性



木村健一



工藤智代

水が運ぶ、水が育む それぞれの風土

分科会7●地域と水

大切にしたいね。それぞれの土地の、いくつかの水物語。

歴史やその土地固有の生き物たち。水は個性ある地域の象徴でもあります。水を大切にすることは、その土地の歴史や個性ある文化を守ることにもつながります。地域と水と私たち、そのよりよい関係つくりのために、今できることから考えてみましょう。

佐藤楓（宮城県）
佐藤佑哉（福島県）
増田淑乃（静岡県）
松本和樹（岡山県）
生田日日（高知県）
橋田飛翔（高知県）
村上駿平（熊本県）
甲斐美穂（宮崎県）
猪股由子（秋田県／子ども企画委員）
ファシリテーター：畠中雅英（広島工業大学大学院）
アドバイザー：内田尚宏（川と森のクラブ）
アドバイザー：遠藤真一（国土交通省東北地方整備局）
補助・連絡：横濱秀明（国土交通省河川局河川環境課）
記録係：大友会美（水環境ネット東北）

自分の住んでるところ、好き？

（声）私たちは、たくさんの水の恩恵を受けて毎日を過ごしているよね。でも、ときどき忘れてしまうこともある。水を無駄に使ってしまったら。ひとりひとりが、普段の暮らしの中で、どうしたら水のことをもっと真剣に考えられるようになるだろうね？

（声）うーん、テレビのニュースや新聞などで、水に関する話題が出るけれど、そういう情報をよく知ることかな。でも、最初に、僕たちは自分の身のまわりから始めてみたらどうだろう。

（声）身のまわりって、具体的にどんなこと？

（声）私たちが、毎日暮らす場所のこと。学校のまわり、家のまわり、地域、自分の属しているところのこと。

（声）そうだね。自分ひとりじゃなくて、自分と誰か。そんな「人と人のつながりがある」場所のことだね。

（声）それともうひとつ。「好き！」って思える場所のこと。

（声）ここに住んでいてうれしいな、って思える場所があること。きっと、みんなの心の中にもあるよね。

（声）誰かと共有したい。心から好きと思える場所。そんな場所をたくさんの人と分かち合えたら、ほんとうにいいな。

（声）好き、と思える気持ち。それは、どこから来るんだろうね。

（声）それは、ひとりひとりが、水と仲良くなる体験を積み重ねていくことから生まれるんだと思う。

（声）水質調査や川遊び、清掃活動などを、自分が好きな場所のために、やってみる。

（声）ただ、好きな景色を楽しむ、っていう一歩でもいいよね。

（声）うん、大きな活動じゃなくていい。いつも見ている大好きな川や景色のために、最初の一歩は小さくてもいいよ。

（声）大切なのは、自分たちの好きな場所だから、っていう気持ちだよ。好きだから、水のために出来る小さなことを続けるってことなのかも。

その場所に流れる、水の歴史。

（声）そして、好きになるためには、もうひとつ。自分が好きな場所をもっと深く見てみる。その土地の歴史、水の歴史を知ること。

（声）目に見える風景と、目に見えない歴史。昔の川はどうだったか、昔の人たちはその土地でどんな風に水とつき合ってきたか。歴史の中に、その土地にしかないキラリと光る何かを見つけれたら、きっともっと好きになれる。

（声）今まで無関心だった人も、自分たちの住む場所のことをよく見て、知ってみれば、好きになれるかも。

（声）でもみんな、忘れないでね。私たちは未来のことも考えないといけないと思うよ。

（声）うん。その土地で、100年続けられることをしたいね。

（声）日本の川は急流で、その流れが特色ある風土を作ってきたね。そして、その川の流れは、上流域の暮らしと下流域の暮らしをそれぞれ生み出した。それぞれの、違いのある風土を尊重した活動をする 것도大切だね。そして、100年先へ！

地域の理想は多種多様。

（声）自分の住んでいる場所を好きになる。そのためには、地域に関心を持ってもらうことが大事だと、分かってきたね。でも、どうしたらそうなるだろう。

（声）「この川はこうなってほしいな」とか「こんな暮らしがあつたらいいな」っていう、ひとりひとりの理想を出し合ってみるのはどうかな！そして、一緒に活動をする。一緒に何かを目指すことから、お互いに仲良くなって、地域のことも好きになる。

（声）うん。楽しい理想をたくさんの人と分かち合うために、自由にいろんな想像をしてみることが大事だね。「ああなつたらいいな」「こうなつたらいいな」って。

（声）方向性の違う想像力を、どんな風にまとめあげていくか。その時に、きっと僕たちは地域への愛情だけではなく、地域の人たちとどんな風に仲良くなっていくかっていうことも、学んでいくんだね。

（声）うん。みんなの理想を100年先まで運ぶために！

分科会名：第7分科会・地域と水

④ みんなの水への考え

環境問題・地域の水の今昔・地域と水の関わり・水(川)に対する考え など

④ みんながやっていること

家庭→お風呂の残り湯を洗たくに利用。蛇口に節水コマをとりつける など。

地域→ゴミ拾いをする。EM菌の活動をする。など。

その他、環境教育、水質調査、他の調査、公共の政策……

☆地域と水と私たちのイ関係☆

私たちの理想の関係をすくなくしてみました④ (すくなく)

START!!

みんながスキ①と
思える環境。①



た・い・せ・つ

地域の水を大切に
守っているというキモチ
を出す②

水に興味をもって
もらうことが必要③



④ 水と仲良く共に生きる



あまり人間の
手を加えない⑥

ゴミを捨てない。無くす!
人間によって水が
汚れることのないように!⑤

忘れられないくらい
生き物を!!
想像⑦
のようないかに



GOAL (まとめ)

- 興味をもつ ← **きっかけ**が必要。…調査など、水に触れる。
- 実際に活動をする。水に近づく。環境系イベントに
- **好き**と思える環境に近づける **キモチ** **すすんで参加する** **感じる**ことが大事。
- 残すべし自然を残し、手を加えずに。再生に手を加
- **共に生きる!!**

〈詳細〉

- ② 節水を心がける。(お風呂の残り湯利用・たらいに水をためて洗う物・雨水利用……)
- ③ まわりの地域への関心が薄れている → 水(地域)について発見したことを公に知らせる(新聞とかで。)
- ④ 地域とかの小規模な活動を全国各地で広めていく。そうして水と仲良くなっていきましょう。
- ⑤ 人間が中心の世界になってきている。自然の話を考えて行動しましょう。
- ⑥ 自然にムリな手を加える時のちゃんとした住民活動をする。住民の理解を得ることが大事。
(上にも書いたが)残すべし自然を残そう!!

松本和樹(岡山県) 佐藤佑哉(福岡県)
甲斐美穂(宮崎県) 橋田飛翔(静岡県)
佐藤楓(宮崎県) 村上駿平(熊本県) → 右につづく



増田 淑乃(静岡県)
生田 日日(高知県)
猪股 由子(Akita)
おしまい♡

佐藤楓



佐藤佑哉



増田淑乃



松本和樹



生田日日



橋田飛翔



村上駿平



甲斐美穂



猪股由子



畠中雅英



「伝える」と楽しい。「伝わる」とうれしい

分科会8●環境教育

「伝える」と楽しい。「伝わる」とうれしい。僕らの世代の環境教育へ！

水の大切さやおもしろさを、たくさんの子供たちに伝えたい！
多くの人と水について語り合いたい、知り合いたい。私たちは
目指します。

中村紗友香（宮城県）
京谷大志（宮城県）
佐藤大地（福島県）
寺尾牙加（静岡県）
中田紗由里（静岡県）
真田あゆみ（熊本県）
甲斐由貴（宮崎県）
南部玲生（北海道／子ども企画委員）
ファシリテーター：鎌田直樹（東北工業大学工学部環境情報工学科）
アドバイザー：阿部千津子（ガールスカウト宮城）
アドバイザー：清水晃（国土交通省東北地方整備局）
補助・連絡：竹中一滋（国土交通省河川局河川環境課）
記録係：中山尚（河川環境管理財団）

が生まれてきたらいいね。

（声）うん、それから、楽しかった思い出をみんなで話し合う、
みんなに伝えられる場があったらいいな、ッと思う。そしたら、
もっとたくさんの人に環境教育を広げていくことができると思
うんだ。

（声）そうだね、僕らの世代の環境教育、「自然で遊ぶ」、
「環境について知る」「考えて広げる」そんな言葉で置き換え
てみようか。

教育のいろいろ。

（声）教育って、大人に与えられるだけのものなんだろうか。
私たち子どもだけでできること、大人たちと一緒にできること、
大人の人にしかできないこと。そんな風にお互いが出来ること
を提言して、自立できたらいいよね。それに、たくさんの人た
ちに思いを伝えるために、マスコミュニケーションの様々な場
面で発表できるような窓口がもっとたくさんあるといいな。

（声）うん、そのためにも、私たち、もっと遊んで、知って、
考えなきゃね。でも、まずは遊ぶ！かな。

環境教育って何だろう？

（声）みんな勉強は好き？たぶん、勉強が好きな子どもってあ
まりいないよね。（笑）環境教育って言葉、僕たちには
少しむずかしい言葉。なんだか勉強をしなきゃいけないのにな
って少し緊張しちゃう。

（声）そうだね、言いたいのは、環境と、「どんな風に仲良く
して友だち同士でいられるかな」っていうことを考えて、行動
するってことなんだよね。

（声）うん、友だちを作るときに、教科書を最初にひらく人は
いないよね。じゃあ、最初に何をしたい？どんな風に友だちを
つくる？

（声）友だちをつくって、その友だちと一緒に、何かした！っ
ていう思い出がいっぱい楽しい。だから、水の環境も含めた自然
のなかで、たくさん楽しいことを体験したらいいと思う。

（声）じゃあ、水のための環境教育、どんなことをしたらいい
と思う？

（声）遊びたい！もっと水辺や自然のなかで遊んでみたいよ。
僕たちは、川や水辺は危険なとこって教えられることが多いから、
ほんとうに水の中で楽しく遊んだ経験が少ない。でも、もしかし
たら、安全に遊ぶ方法を知らないだけなのかもしれない。だから、
安全に、そして自然と友だちになれるような遊びをしたい。

（声）水の始まりから守る。水の赤ちゃん。山の森を通ってくる
水を守るために、山に木を植えたり育てることからやってみよう。

（声）遊びの中から、自然に「知りたいこと」や「考えたいこと」

分科会名： 環境教育 (8分科会)

環境教育とは？

体験などを通して、環境問題に取り組んでいける人を育てる教育活動。

○今の環境について知る

- 「私の体験談」
- ・白くじらについて
 - ・ホタルについて

○問題点など

- ・安全に遊べる川がない
- ・話し合いの出来る場所がない
- ・子供だけだと、活動が出来ない事が多い

○解決策

*自分達が出来る事

- ・ゴミ拾いなどのボランティアを呼びかける
- ・環境関係の行事がある時は、できるだけ多くの友達を誘って参加する
- ・ネットワークを広げて、情報交換をしていく

*大人の方々にやって欲しい事

- ・安全に遊べる川をつくらせて欲しい
 - ・環境に関するイベントを増やして欲しい
 - ・話し合える場所をつくらせて欲しい
 - ・子供達だけでなく、大人の人達も意識して欲しい
- ※ マスコミにもっと環境問題を取り上げて欲しい



宮城県 鎌田 直樹 (ファシリテーター)

宮城県 中村 紗友香

宮城県 京谷 大志

福島県 佐藤 大地

静岡県 寺尾 牙加

静岡県 中田 紗由里

熊本県 眞田 あゆみ

宮崎県 甲斐 由貴

北海道 南部 玲生



中村紗友香



京谷大志



佐藤大地



寺尾牙加



中田紗由里



眞田あゆみ



甲斐由貴

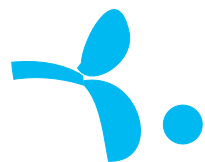


南部玲生



鎌田直樹





フォトギャラリー

みんなの笑顔、あつめよう



ありがとう。水の仲間たち。

〇実行委員会皆さま

新川達郎（実行委員長／東北流域会議代表幹事・特定非営利活動法人水環境ネット東北代表理事） 森吉尚（副実行委員長／国土交通省河川局河川環境課河川環境保全調整官） 清水晃（副実行委員長／国土交通省東北地方整備局河川部河川調査官） 高橋万里子（事務局長／東北流域会議事務局・特定非営利活動法人水環境ネット東北専務理事） 相澤古則（宮城県力ヌー協会副会長） 安部秀和（プランニング関） 伊藤淳（特定非営利活動法人広域防災水難救助捜索支援機構〈JpSART〉東北広域基幹支部支部長） 江成敬次郎（東北工業大学環境情報工学科教授） 伊藤順一（花山村教育委員会教育長） 関沢元治（実行委員／国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所所長） 佐々木豊志（くりこま高原自然学校校長） 橋本潔（宮城県土木部河川課長） 平岡さち子（ガールスカウト日本連盟宮城支部長） 中村秋夫（宮城県土木部砂防排水資源課長） 山本雅史（財団法人河川環境管理財団）

〇運営委員会の皆さま

飯田学（国土交通省東北地方整備局河川部河川環境課調査係長） 伊藤一彦（宮城県土木部河川課技術補佐） 黒澤策郎（国土交通省東北地方整備局河川部河川環境課建設専門官） 齋藤純子（せんだい杜の子ども劇場21） 佐藤伸吾（国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所調査課長） 佐藤卓也（花山村教育課社会教育主事） 志賀憲一（宮城県土木部砂防排水資源課技術補佐） 菅原一成（財団法人河川環境管理財団） 菅原正徳（特定非営利活動法人水環境ネット東北） 竹中一滋（国土交通省河川局河川環境課環境対策係長） 長倉麻子（前世界子ども水フォーラム地域交流事務局） 西川和雄（国土交通省東北地方整備局河川部河川環境課長） 花田須磨子（財団法人河川環境管理財団） 藤伸一郎（仙台市力ヌー協会） 馬渡達也（くりこま高原自然学校） 森本輝（国土交通省河川局河川環境課課長補佐） 吉野英夫（財団法人河川環境管理財団）



○スタッフ

青田洋一（宮城県土木部砂防水源課） 安倍真奈美（ガールスカウト日本連盟宮城支部） 伊藤誠（仙台市カヌー協会） 入江靖（財団法人河川環境管理財団） 大友会実（特定非営利活動法人水環境ネット東北） 大友佳代子（特定非営利活動法人水環境ネット東北） 海藤節生（特定非営利活動法人水環境ネット東北） 柿崎憲勝（国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所） 金股模（特定非営利活動法人水環境ネット東北） 小岩勉（特定非営利活動法人水環境ネット東北） 小林和重（宮城県土木部河川課） 今野潤一（宮城県土木部河川課） 坂井裕美子（財団法人河川情報センター） 斉藤幸子（財団法人河川環境管理財団） 斎藤正博（宮城県土木部河川課） 佐藤耕一郎（宮城県土木部砂防水源課） 佐藤聖介（財団法人河川環境管理財団） 佐藤正記（特定非営利活動法人水環境ネット東北） 佐藤三代子（ガールスカウト日本連盟宮城支部） 菅原隆（宮城県土木部砂防水源課） 鈴木博道（仙台市カヌー協会） 瀬川義行（宮城県土木部砂防水源課） 関根ふじ子（特定非営利活動法人水環境ネット東北） 田中里佳（国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所） 豊留雄二（くりこま高原自然学校） 中山尚（財団法人河川環境管理財団） 中山崇志（くりこま高原自然学校） 布田直志（特定非営利活動法人水環境ネット東北） 谷田貝泰子（特定非営利活動法人水環境ネット東北） 渡辺次宏（JpSART東北広域基幹支部） 渡辺紀（ガールスカウト日本連盟宮城支部） 横濱秀明（国土交通省河川局河川環境課） 花山村食生活改善推進協議会

◇アドバイザー

芦野真一郎（北方自然と文化の会） 阿部千津子（ガールスカウト日本連盟宮城支部） 内田尚宏（川と森のクラブ） 江成敬次郎（東北工業大学環境情報工学科教授） 遠藤真一（国土交通省東北地方整備局河川部地域河川調整官） 小山哲也（一迫町水道課長） 呉地正行（日本ガンを保護する会） 佐々木正人（川と道路なんだから？を支援する会） 黒澤策郎（国土交通省東北地方整備局河川部河川環境課建設専門官） 佐藤伸吾（国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所調査課長） 清水晃（国土交通省東北地方整備局河川部河川調査官） 高橋一悦（宮城県土木部砂防水源課技術副参事） 中井裕真（日本ユニセフ協会） 山田一裕（岩手県立大学総合政策学部） 西川和雄（国土交通省東北地方整備局河川部河川環境課長） 森本輝（国土交通省河川局河川環境課課長補佐）

◇Special Thanks

坪香伸（国土交通省河川局河川環境課長） 富田和久（国土交通省東北地方整備局河川部長） 藤芳素生（社団法人日本河川協会専務理事）

子どもたちの自主性を 尊重するために苦心したこと。

新川達郎（子ども水フォーラム・フォローアップin宮城 実行委員長）

2003年3月に、滋賀・京都・大阪で開かれた「第3回世界水フォーラム」の子ども水フォーラムに集まった子どもたちが、水環境を考えその活動を継続するために、広島にそしてそれに次いで宮城に集うことになった。そのすべてにおいて、子どもたち自身が自主的に企画し運営することが何よりも重要だと考えてきた。そのために、今回の「世界子ども水フォーラム・フォローアップin宮城」においても、企画段階から子どもたち自身がアイデアを出していくこと、そしてフォローアップの主役としてだけでなく脇役としても運営を支えてもらうことにした。

これまでのフォーラムに参加した子どもたちが率先して考え実行して行ってくれたことにより、また花山中学校の子どもたちの手厚い協力もあって、自主性という点では、一定の成果をあげることが出来たと考えている。もちろん、現実には、企画段階から関わった高校生たちの努力によって、また、ボランタリーに協力していただいた大学生の支援があって、フォーラムの運営ははじめて成功といえるものになった。

大人の側は、終始、側面支援にまわっていた。もちろん、資金の調達から、専門家やアドバイザーの準備、現地での川や水辺の活動現場での組み立てや指導、会場の設営などは、大人の側の役割であり、フォーラムの盛り上げ役として大活躍したともいえる。本来であれば、子どもたち自身が、資金を集め、参加者を募り、会場を設営し、企画と運営をしていくことが望ましいのであろうが、それはまた現実的ではない。むしろ可能なかぎり子どもたちが自主性を発揮できる条件を作り出すこと、そして子どもたちの意思を尊重した運営をすることを目指した。

暮らしの中で、実際の行動へ。

森吉尚（子ども水フォーラム・フォローアップin宮城 副実行委員長）

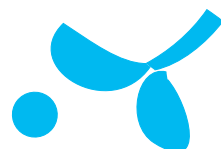
たくさん子どもたちが、お互いに、初めて会いました。そこから、それぞれが成長をしていった3日間でした。このフォーラムは、子どもたちが企画し、テーマを決め、そして運営をする、というスタイルを取りました。みんなで力を合わせて、ひとつのことをまとめていく過程がそこにありました。それは、それぞれの年齢ごとに、大変立派に出来たと感じています。

子どもたち自身も発表していましたが、水の問題はほんとうに奥が深く、人の生活に一番深く関わっている問題だと思います。この3日間をきっかけに、これからも水についての考えを深め、そしてそれぞれの住まう地域に帰って、家族や友人たちと話し合い、実際の行動を起こし、そこからまたひとつづつ学びとってほしいと願っています。それが、私たちの一番の希望です。

このフォーラムを支えてくださった多くのスタッフのみなさん、子どもたちのご家族のみなさんに、心より感謝申し上げます。そしてまた、豊かな自然、温かいふれ合い、多くの思い出を与えてくれました花山という素晴らしい土地に感謝申し上げます。

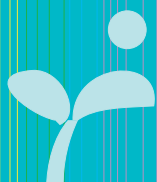


おわりに



たくさんのいのち、そして、
めぐりつづける水のために。
続け! 世界へ。





お問合せ

財団法人 河川環境管理財団

子どもの水辺サポートセンター

〒104-0042 東京都中央区入船1-9-12

tel.03-3297-2608 fax.03-3297-2677

特定非営利活動法人

水環境ネット東北

〒980-0011

宮城県仙台市青葉区上杉1-4-25-3F

tel.022-723-1390 fax.022-723-1391